

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第181号(2022. 4. 1)
事務局 川西地区自主防災会

地域の中の施設として
～地域の安心の拠点づくりを目指して～

特別養護老人ホームエデンの丘
施設長 古川有希子

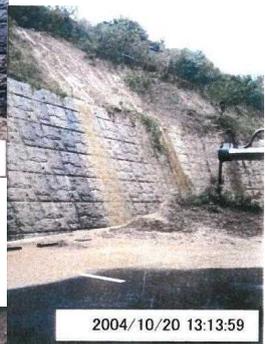
特別養護老人ホームエデンの丘は、1969年高松市で最初の特別養護老人ホームとして開設した「シオンの丘ホーム」の姉妹施設として、介護保険スタートの年（2000年6月）にオープンしました。施設は2級河川の本津川と香東川を有する高松西部地区の「弦打地区」にあります。シオンの丘ホームの他にもヨハネの里など、高松西部地区にそれぞれ違った形態で事業を行っております。位置関係は地図の通りです。



この地図の位置関係からもわかるように、エデンの丘は峰山公園のある峰山を少し上ったところにあり、地域の方に「いつでもお気軽にお立ち寄りください」と言える場所ではありません。そこで、弦打地区の方々に歩いてでも立ち寄って頂ける場所としてヨハネの里が2017年にオープンしました。ヨハネの里は弦打地区の指定避難所となっている弦打小学校にも隣接しており、往来しやすい場所にあります。このように、立地条件としても地域との接点を持ちにくいエデンの丘ですが、地域の中の安心の拠点づくりとしての施設を目指し、防災に力を入れるようになったのは、次の経験がきっかけでした。

2004年10月連日の長雨の最後に秋雨前線を伴った台風が襲来。高松市も多くの家が水に浸かり、本津川では家が流される光景も報じられました。

エデンの丘では、昼前より裏山の土砂がパラパラと落ちてきて、昼を過ぎたころから駐車場に裏山の盛土が落ちて堆積し始めました。そして翌朝には写真のような状態に。



←避難者を移送中の香東川の状況

施設入り口の→
内水氾濫



施設内では昼前よりご利用者様のシオンの丘ホームへの避難を開始しましたが、水の勢いも速く避難経路での内水氾濫やアンダーパスの水没などで、ご利用者様の避難は2往復程で断念しました。それでも、市役所の職員の方や地区の消防団の方がお手伝い下さり、寝たきりの方などをお運びすることが出来ました。

その後、幸いにも水や電気は止まりませんでしたので、デイサービスは5日間の営業中止、シオンの丘ホームへの避難者は1週間の避難生活で戻ることが出来ました。しかし、崩落現場の復旧には半年程かかりました。

この時の経験で防災に関する職員の関心も高まったものの、この時はまだ自然災害による被害も頻発しておらず、異変に早く気づき、警戒力を高めるための防災活動にとどまっていた。その後、2011年3月に東日本大震災が発生し、翌年から日本でもシェイクアウト訓練が行われるようになってきました。香川県では2013年11月から始まりましたが、当施設もこの開始時からシェイクアウトに参加させて頂いております。この時はプラス1訓練として救護訓練を実施しました。Startの年だったので報道の方もたくさん来られ、訓練の様子が報じられました。



それからは毎年実施しており、プラス1訓練として、消火訓練や慰問中の保育園の園児たちとの合同訓練、R1 年度はかがわ自主ぼう連絡協議会の岩崎会長をはじめ防災士の皆様が施設内の危険箇所チェックを。

←訪問指導記録と施設内の危険箇所チェックの一部抜粋

別紙様式

訪問・訓練指導等記録

担当員

1. 日時	令和元年11月8日 9時40分
2. 所在地	高松市警備町1170番地4
3. 組織・氏名	特別養護老人ホームエデンの丘
4. 他の参加者	窪打地区民生委員・自主防災会

5. ヒアリング・研修指導等の内容について
 シェイクアウト訓練及び、プラス1訓練の実施
 (1)各階にてシェイクアウト訓練実施
 (2)プラスワン訓練1は施設内の危険箇所の点検を行
 ① この施設は政府コンクリート造4階建てです
 の点検を行った。各階とも同じような危険箇所の
 発見では3階(廊下)5名居住について報告
 ・各部屋の扉の取っ手が2階(廊下)1名居住です
 ・各部屋のテレビが固定されておらずで
 テレビもありました。(写真あり)
 ・一人部屋に設置したテレビのガラスが
 破損の恐れも同じガラスが対象です。(写真
 ・サービスステーション内のコピー機、キ
 ーボード、写真あり)スチール製冷蔵庫、テ
 ラの下の床の手すりロープ等で固定
 されているので固定が難しい。あえて
 定でも仕方ないと思われる。出来れば
 はどうでしょうか。(写真あり)
 ・廊下の飲み物サーバーの固定方法は
 合でも固定器のみを3段階で固定
 取り付け取付上のキャベットの取
 ・レクリエーションルームと候議室の
 の固定(写真あり)
 ・2階共有スペースの自転車、本棚



←園児たちとのシェイクアウト訓練。子どもたちの素早く完璧な防御姿勢に脱帽しました。

今年度は同じくかがわ自主ぼう連絡協議会の防災士の方による「家具の転倒防止対策」の現地指導を。と継続して実施しています。



家具の転倒防止対策として、家具の配置、L字金具の取り付け方、H型突っ張り棒設置の際の注意事項と取り付け方、取り付けに必要な道具・・・など細かくご指導いただきました。

地域との防災の関りが出来たのも 2013 年でした。この年初めて地域の防災訓練に参加させて頂きました。エデンの丘が福祉避難所であることから弦打コミュニティ協議会 防災部会の方よりお声がけを頂きました。この年より、年に一度の地域の防災訓練に毎年参加させて頂くようになりました。

←最初は防災訓練への参加者として。
徐々に避難訓練をお手伝いする側に。→

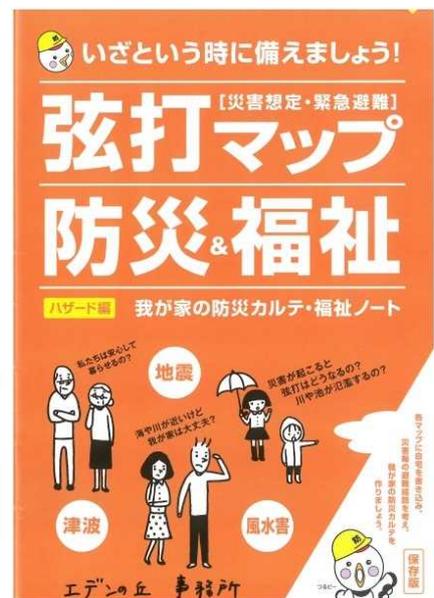


2017 年からは弦打コミュニティ協議会 防災部会の一員として毎月の部会にも参加させて頂くようになりました。

防災部会ではとても熱心に地域防災に取り組まれており、防災情報が詳細に掲載された「弦打マップ 防災&福祉」という冊子の発刊やそれを使った教育や訓練もされていました。この弦打マップは様々な災害想定に対して地域内のどこにどんな危険があるのかを分かりやすく表記してくれているため、エデンの丘では、部署毎に常備するだけでなく、送迎車にも設置し、送迎中に被災した際にも安全なルートや場所を判断できるように備えています。

また、災害時に地域との連絡や情報収集の手段としての「防災無線」も防災部会を通じて設置させて頂きました。

毎年の訓練時には無線を使用した訓練もさせて頂いています。



防災部会で学ぶことは多く、地区の様々な取り組みの中で出てくる情報から、施設の備蓄や備品を考え取り入れるようになったり、防災に関する知識や関心を広報誌「エデンの丘だより」を通じて発信したり、防災部会の方に施設内で行う防災研修の講師をして頂いたり…と少しずつ施設の防災力を高めることが出来てきました。

←防災部会の方による「弦打マップ」を使っての施設内研修

施設内の防災訓練も年々訓練内容が増加してきており、火災を想定した避難訓練、風水害を想定した避難訓練、炊き出し訓練、安否状況登録訓練など防災推進委員会を中心に実施しています。

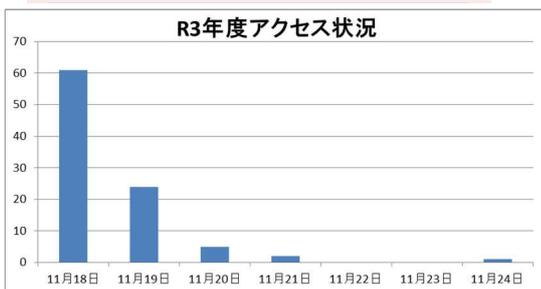
火災想定 の 夜間想定避難訓練



風水害想定避難訓練



安否状況登録訓練



炊き出し訓練



防災研修



AED 研修



ライフラインが止まった時を想定しての炊き出し訓練では、ローリングストックの意味合いも兼ね、ご利用者様にも昼食として食べて頂いており、容器の使い勝手や飲み込みが悪い方へのソフト食やミキサー食などへの対応も確認しています。また、炊き出し用にガスタンクを利用すべく、非常用コックを設置し、安全にガスを利用した調理が非常時においてもできるようにしています。

防災研修は毎年テーマを変えて実施し、AED研修は消防の方にも立会いを依頼し、人形を使った研修だけでなく、プラスαの知識もご指導いただいております。

と思うのだけど・・・とお声がけを頂きました。その際、BCP 作成のことを相談すると、福祉事業所の業務継続は地区防災計画とも関連のあることだからと、BPC 作成についても説明会でお話して頂けることになりました。厚生労働省が出している BCP のひな形に沿って説明してくださり、ハザードマップからの必要情報の読み解き方や災害発生時の避難の仕方や職員の参集のタイミングを計るためのデータが防災ポータルサイトなどに用意されていることを教えていただき、施設の業務継続を考える際に、地域の被災状況や道路のアクセス状況がとても重要なファクターになることを知ることができました。このご縁で BCP 作成支援もして頂けることになり、現在作成に取り組んでいます。

施設の業務継続計画ではありますが、そこには「地域の中の施設」として出来る事を考えるという大切な要素がきちんと含まれたものになっていっていると思います。施設の業務継続には地域の皆さまの支援が必要であり、施設が業務を継続していると言うことが地域の皆さまの安心に繋がる・・・そのような関係性を目指して、今後も「地域の安心の拠点づくり」に努めてまいりたいと思います。

今回は、施設の防災への取り組みを紹介させて頂く機会を賜り、心より感謝いたします。これを機に、福祉施設の存在が、地域の皆さまのより身近なものとなれば嬉しく思います。

離任のご挨拶

元 香川県危機管理総局長 寺嶋 賢治

令和4年4月の人事異動で、4年間お世話になった危機管理総局を離れることとなりました。私はそれより以前の平成26年度と27年度の2年間も危機管理課長として在任しており、これら6年間の在任中、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様には大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。



この6年間にあたためて振り返ってみますと、本県において、大きな人的被害が発生するような災害が発生しなかったことがなにより幸いでした。一方で、全国では、毎年のごとく大規模な風水害や地震が発生し、多くの尊い生命や財産が失われております。さらに、そこに追い打ちをかけたのが新型コロナウイルス感染症です。コロナがまん延しているからと言って災害が待ってくれるわけではなく、コロナ禍における災害対応という新たな課題を突き付けられる中、避難所における感染症対策や感染症下での防災訓練など、新たな取り組みができたのも、ひとえに、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様のおかげとっております。感謝申し上げます。

将来の発生確率が高まっている南海トラフ地震などの大規模な災害が発生した場合には、自助や公助には限界があり、「地域は自分たちで守る」といった共助の役割はますます大きくなっています。しかし、県民の方々の防災意識は必ずしも高いわけではなく、災害への備えも十分とは言えないと思います。皆さん方の活動が、安政南海地震において住民を津波から守った「稲むらの火」の如く、また、私が課長の時に感銘を受けた長野県における「白馬の奇跡」の如く、地域住民の方々を災害から守る取り組みの旗となり、導いていかれますことを心からお願いいたしております。

最後になりましたが、かがわ自主ぼう連絡協議会のますますのご発展と、会員各位のご健勝ご多幸を祈念して、ご挨拶いたします。ありがとうございました。

元香川県理事（兼）危機管理総局次長・政策調整監 三好 正明

春暖の候、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて 私こと

このたび3月31日をもちまして、香川県を定年退職いたしました。危機管理総局在職中は、皆様方に一方ならぬご懇情を賜り、誠にありがとうございました。

当職場での奉職は、2年間の他部局での在職をはさみ、計4年間でありましたが、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

近年の状況を鑑みますと、毎年のように発生する豪雨災害や、全くの想定外であった新型コロナウイルスの世界的パンデミック、世界全体の交流、経済状況を一変させた国家間戦争など、危機という事案は様々に形を変えて私たちを苦しめています。

中でもやはり、私たちの身近で毎年のように必ず発生する、豪雨による大規模災害への備えにつきましても、「自助」、「共助」の役割は極めて重要であり、「公助」との連携で、被害最小化に資するものと痛感しております。それは、防災組織の献身的な活動により、被災者の方々の支えになっているところであります。

さらに、東日本大震災以降、東北地方一帯では大きな地震が頻発するとともに、日向灘での地震や、紀伊半島周辺での地震など、地震被害発生リスクは確実に高まり、地震への備えにつきましても気を抜けない現状の中、南海トラフを震源とする巨大地震への対策も、その対策の練度を上げ続けねばなりません。

そのためには、「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様のお力が極めて重要であり、その活動が大きな輪となって県全体に広がっていき、名実ともに安全・安心な香川となっていくことを確信いたしております。

最後になりましたが、貴会の今後益々のご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げ、私からの退職のご挨拶といたします。

危機管理総局 危機管理課長 塩田 広宣

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様には、令和2年4月に危機管理課へ配属されて以降、2年にわたり、大変にお世話になりました。

昨今、気候変動等の影響が各方面でクローズアップされる中、全国各地で甚大な被害を生じる豪雨・土砂災害が相次いでおり、また、近い将来の発生確率が高まっている南海トラフ地震は、これまでの災害とは別格の被害をもたらす可能性もあり、こうした大規模災害に対する備えは、県政上の最重要課題の一つとして、県をあげた対策が求められています。

こうした中、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様には、地域防災力強化のため、先頭に立ち、取組みを進めていただいております、誠に心強い限りであり、長年にわたる皆様のご労苦には、深く敬意を表する次第です。

引き続き、県においては、自助、共助、公助の観点から、「災害に強い香川づくり」に全力をあげてまいります。皆様方におかれましても、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、かがわ自主ぼう連絡協議会の益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます、私の転任のご挨拶といたします。

危機管理総局 危機管理課 主任主事 長谷川 純平

この度の人事異動により、危機管理課を離れることになりました。

2年間という短い期間ではありましたが、岩崎会長をはじめ、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様とともに自主防災行政に携わることが出来たのは、大変貴重な経験となりました。

特に、消防学校で実施した自主防災組織リーダー研修会において、避難所運営訓練を企画し、一緒に作り上げた経験は、この2年間で最もやりがいのある仕事であったように感じます。

かがわ自主ぼう連絡協議会が設立以来 15 年を迎える節目の年に、担当職員として携わることが出来ないのが大変心残りですが、後ろ髪を引かれるような思いではありますが、新しい職場でも皆様から学んだ様々な経験を胸に、精進してまいります。

最後になりましたが、貴会のますますの御発展と、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

事務局だより

令和 4 年 4 月



今月は『人生達観』のおもいを紹介したいと思います。

3月22日（火）三豊市財田支所へ防災パネルを展示した後、20年あまり 人生の生きざまを説いてくださる「古市正幸」師 まんのう町七箇にある福浄寺の住職さんを訪ねご挨拶を申し上げます。（私が総代をしている西方寺主催報恩講の法話を担当）

仏僧衣姿ばかりでお会いしていたので私服でお会いしたのは初めて時間の都合で、玄関で20分位、私は椅子席に古市様は正座され背筋をピンと伸ばされリンとした振る舞いでお相手していただきました。

本年で満90歳をおむかえしたとのことですが、その姿はかくしゃくとしており言葉使いも丁寧かつ味のあるお話を頂きました。

私も50才より神社、並びに寺院のお世話をしており、今までは先人が行ってきた事を後世に繋いでいく役割だと思ってお世話してきましたが、わずか20分位でのお時間でありましたが、まさに仏様と一緒にという感がありました。

お会いして日々時間が経ちましたが、その雰囲気忘れることなく よけいに素晴らしい時間を過ごせたことに感謝をしているしだいです。

最近政治家の皆さん、何事にも「お金」で解決しようとする人が多く真に民の心をゆさぶるような人がいなくなった事は淋しいと思っています。静かな口調で話され正座姿を微動だ、する事もなく目は童心のごとくキラメキ、こんな立ちふるまいが出来た人間になって晩年を過ごせればと思ったしだいです。



編集後記

今月号は香川県福祉関係の女性リーダー格として活躍されている 古川様に原稿を依頼しましたが防災に対する取り組みを優しく、丁寧に、又決意のほど十分に伝えて頂いており福祉関係者はもちろんのこと、地域の自主防災会並びに自治会の役員の皆様に遡及するものが多く、範にしていれば幸いです。

古川様素晴らしい原稿有り難うございました。